第 9 章

福祉分野の認知行動療法

［編集担当：大野裕史・境 泉洋］

福祉分野における認知行動療法の活用は，医療・保健，教育に次ぐ，主要な活用分野であると考えられる。しかし，医療・保健，教育，司法と比較して，福祉分野におけるエビデンスに基づく活用が立ち後れている感は否めない。本章では，そうした中でも国内の福祉領域で認知行動療法が活用されているテーマを取り上げている。このリード文では，本章で取り上げたテーマについて，生涯発達の観点と地域援助の観点から整理することで本章の概要を示したい。

生涯発達の観点からは，幼少期から老年期までを取り上げている。幼少期に関しては，早期療育について温泉美雪氏が執筆されている。また，米山直樹氏が子どものデイサービスにおける支援，大澤香織氏が虐待について執筆されている。さらに，社会的養護について岡島純子氏が執筆されている。成人期に関しては，高年齢化したひきこもりについて境 泉洋氏，成人の ADHD について金澤潤一郎氏が執筆されている。成人期における重要な課題となる就労に関して，池田浩之氏が発達障害者の就労支援，千田若菜氏が職業リハビリテーションについて執筆されている。今後，大きな活用領域となることが期待される老年期に関しては，宮 裕昭氏が高齢者の支援，認知症における認知行動療法の活用について執筆されている。また，介護者のサポートについて山田幸恵氏が執筆されている。

本章においては，生涯発達を網羅したテーマに関して，認知行動療法をどのように活用するかを学ぶことができる。また，特定の障害として，渡部匡隆氏が重度知的障害者，今野義孝氏が重症心身障害について執筆されている。

次に地域援助の観点からは，当事者の関係者への支援として，野呂文行氏が福祉領域での親支援，山本 彩氏が発達障害者の兄弟姉妹支援について執筆されている。また，地域における支援のあり方として，野呂文行氏が福祉領域における職員支援，伊藤絵美氏が当事者研究，山本 彩氏が地域生活支援，岡本利子氏が訪問支援について執筆されている。

これらの多彩な項目は，すでに認知行動療法がある程度実践され始めているテーマであるが，今後，福祉領域の関連施設において認知行動療法がどのように応用可能かについて，大野裕史氏がコラムを執筆されている。

本章を通して，福祉領域における認知行動療法の活用の実際と展望について，生涯発達，地域援助といった時間と空間の軸から網羅的に学ぶことができると考えられる。［境 泉洋］